

救い主の系図

マタイによる福音書一章1〜17節

(月)

アブラハムの子、ダビデの子、イエス・キリストの系図。(一)

新約聖書の輝かしい巻頭に、救い主イエス・キリストの系図が記されています。この中に、通常であれば削除されるような名前が何人も登場します。甥ユダとの姦淫の罪を犯したタマル、異邦人ルツ、遊女ラハブ、そしてダビデが姦淫と殺人の罪を犯したウリヤの妻。救い主の系図は、人種的な純血や、道徳的な潔白さを証しするものではなく、この救い主は罪にまみれ、うめき声を上げる罪人たちのただ中へ来てくださったことを表しています。人はそれぞれ他の人には言えないような暗い過去、罪の系図を抱えているものです。肉親が憎み合い、あるいは複雑な人間関係のゆえに傷つき、悲しみの叫びを上げてきた系図を。しかしこの罪人たちの系図の中に、救い主が生まれてくださったのです。この救い主を受け入れたことにより、私たちの罪人の系図は救いの系図に変えられたのです。